



friendship force
WESTERN TOKYO

西東京クラブ会報

No. 16 2012 DECEMBER

エストニア・タリンクラブ渡航特集号



世界遺産に指定されたタリン旧市街

【1】 エストニア・タリンクラブ渡航 総括

ED 虫明 陽子

郡山 C(3名) 大阪 C(1名) の参加も頂き、19名がタリンへ赴きました。私にとって初めてのリターン渡航でした（2010年に受入れ）。出迎えの笑顔と懐かしい歓声で、二年間の無沙汰と渡航の緊張は霧散。一気に旧知の間柄の如く寛げてしまったのは、我乍ら驚きでした。これが「リターン渡航」の醍醐味でしょうか。

タリンの人々が抱える重い歴史は、常に言葉の端端に伺い知れ、軽々しく共感したとは言えないまでも、「気持ちに寄り添えたら…」との思いは多少とも伝わったでしょうか。Friendship Force の意味が少し実感できた気が致します。盛り沢山の企画を用意して頂きました。短い夏を 120% 満喫せんとするパワーに圧倒される思い乍らも、気さくで温かくて親しみのある方々と過ごした一週間は、楽しかった。思い出が尽きません。

渡航に参加の皆様との楽しい会話も、貴重な思い出です。またご一緒できます事を切に願っております。ありがとうございました。

【2】タリン渡航の体験談・報告



タリン郊外マナーハウスで全員集合

2-1) エストニア渡航記

縦 洋子(郡山クラブ)

タリンから車で25分、森の中にたたずむ別荘のようなログハウスと広大で美しいガーデン、それが私達のホストKaiとAndresの住まいでした。ユーモアがあり、茶目っ気たっぷりのKaiと、優しくて穏やかなIT技術者のAndresのご夫妻。毎朝パンを焼いて食事の用意をしてくれたのはAndres。帰りにはお土産のパンまで持たせてくれました。

私達は、会ったその日からすぐに意気投合しました。何しろ趣味がそっくり。GardeningとArt、そしてCountry Lifeを何よりも楽しんでいる。美術館巡りが好きな私のために、Tallinnの美術館に連れて行ってくれたり、お花を見に連れて行ってくれたり、ハーブティに興味があると言ったら、専門店に連れて行ってくれたり、私達を喜ばせたい、Tallinnの良さを知ってもらいたいというのを肌で感じました。毎日が楽しくてよく笑い、よく語り、あつという間に過ぎていった一週間でした。彼らとは、今も、Facebookを通して、交流を楽しんでいます。



ホストファミリーのKaiとAndresと

タリンクラブの人達の心のこもったもてなし、食事の数々、本当に楽しく素晴らしいホームステイでした。

これも、ひとえにEDの虫明さん、高垣さんのお働きと、事前の西東京の皆さんを受け入れがあったからこそと深く感謝しています。ありがとうございました。

2-2) 初めてのアンバサダー体験

稲葉太朗・紀子

我々は今までに8回ほど受け入れホスト役を務めさせていただきましたが渡航するのは初体験になります。今まで渡航をためらっていた理由は太朗の食べ物の好き嫌いが多いこと、二人とも胃腸が弱く油ものに弱いこと、夜アルコールを飲まないと眠れないとなどで受け入れ先の方にご迷惑をかけてはいけないと思い、遠慮させてもらっていました。



ホストファミリーのエネさん・キュッリさん達と

ところが2年前に我が家で受け入れたエストニアのエネさんとキュッリさんのお二人がとても良い方で、是非またお会いしたかったのと、我々の状況を直接メールでご説明したところ、お二人とも何の心配もいらないからウエルカムだと言ってくださったので訪問することにしました。幸いエネさんのお宅にステイさせていただく事が出来、今までの心配事はすべて杞憂に終わりました。食べ物はすべて美味しく、ほぼフルアテンドしていただきすっかりエストニアのファンになりました。覚えていった片言のエストニア語も何とか通用して喜ばれました。貴重な体験ができたことに感謝しております。

2-3) タリンー中世の伝統漂う街ー

富長 健治

今回訪れたエストニア国の首都タリンは、中世ハンザ同盟に属するドイツの城塞都市と言ったイメージである。このバルト三国は全く文化も歴史も異なると言われている。このあとラトヴィアを訪れてその違いの一端を感じたが、三国の比較が出来ないのが残念である。



トームペアの丘からタリン旧市街を望む

タリンがきちんとした歴史に登場するのは13世紀にデンマーク王が十字軍を率いて侵攻し、ここにトームペア城を築いてデンマーク領になったのが始まりである。タリンとはエストニア語で「デンマーク人の城」という意味である。同じ頃1285年にはハンザ同盟に加わっており、もっとも栄えていたのは、13世紀半ばから15世紀であり、ハンザ同盟の繁栄期と重なっている。

そして、今も尚その考え方、伝統や文化を色濃く反映した街であり、石畳の道路や多くの城門・塔等が沢山残っている街でもある。この国の産業は今でもやはり商業であり、物価が安く近隣諸国から買い物に来ると言う。また、自由・独立に対する強烈な意識・価値観はハンザ同盟の一員そのものである。

14世紀末デンマークはこの植民地をドイツ騎士団に売却した。これ以降、今に至るまでドイツの影響が残る。しかし、その後ドイツ騎士団からスウェーデン、更にはロシア帝国の支配下に入り、旧ソ連の崩壊を受けて1991年に独立を達成、現在に至っている。

18世紀初めから約300年近くロシアの傘下にあり、陸続きで圧政に苦しめられた所為かロシアに対する忌避感・嫌悪感、更には独立意識は相当に強いように見受けられた。しかし、自らの歴史を博物館としてしっかりと残し、それについて質問すると、「嫌でも隣の国だし、何よりも市場としてみたとき大きい」との大人の答えが返ってきた。日本人も見倣うべきであり、またホームステイにより相互理解するFFの精神の大切さを改めて感じた次第である。

2-4) お世話になりました

菅沼 益子

親愛なるマーレ、そしてレアお元気ですか。私たちは沢山の楽しい思い出と感謝でいっぱいの気持ちで日本に帰ってきました。

郊外の古い農家を自分たちの手で作り直したというマーレの家は、よく手入れされた大きな庭と、広々とした居心地のいい居間がありました。

私たちが有意義に、楽しくスティできるようにと、いろ

いろ企画を立ててくださいましたね。エストニアの歴史を知るタリンタワー。何処までも続く広大な湿原の木道を歩き、エストニアの自然に触れたり、中世の時代に迷い込んだような高い石造りの城壁のあるタリン旧市街の散策。毎日が新しい発見でした。そうそう、マーレの家で本場のサウナも体験しました。熱氣で満たされたサウナ室には木の香りがし、木製のベンチに腰を下ろし、しばらくすると汗が湧き出でました。ほてった体を、小枝を束ねた白樺で打ちます。思っていたほど痛くはなく、マッサージ効果があるとか。

夢のような一週間は瞬く間に過ぎ、今は楽しかった出来事を懐かしく思い出しています。

心のこもったおもてなし、有難うございました。この狭い地球のどこかでまたお会いできるといいですね。感謝の気持ちをこめて。お元気できようなら。



ホストファミリーのマーレ(右)とレア会長

2-5) タリン民族衣装を着て

松塚 邦子

フレンドシップには今年入会したばかりですが、タリン渡航に参加させていただきました。もともと旅行好きでしたが、主婦になってからは、家族との旅行ばかりでした。今回のタリン旅行は私にとっては、大冒険でした。

私のホームステイのお宅は山崎さんと一緒にミラ・クルビツさん宅。ミラさんは、お花の仕事をしながら、フォークダンスを40年以上もやっておられるそうです。ミラさんの部屋には、フォーカダンスのお仲間と撮った写真が沢山飾っていました。

毎晩、タリン観光から帰ると、CDの音楽でフォークダンスを教えてくれました。また、ある日は夜10時すぎているのに、ケキを作つてあるからと、ミラさんの友達のヘレンさん宅にステイしている加藤さん、稻垣さんも招き、ケーキを食べた後、ミラさんがフォークダンスの時に着た沢山の民族衣装をかわるがわる着せてくれました。カラフルで可愛い衣装でしたが、とっても重く、生地の厚いドレスでした。夏で汗が流れました。エストニアではフォークダンスは国民的な舞踊のようです。

北欧の長い冬に野外で踊るには、このような衣装が必要なのでしょうね。



タリン民族衣装を着て

1週間のタリン滞在も無事終わりました。歓迎会、エストニア観光、フェアウェルパーティー、タリンフレンドシップの皆様、ありがとうございました。また西東京フレンドシップ世話役の虫明さんを始めご一緒にさせていただいた方々、本当にありがとうございました。

【3】 2012年振り返って

会長 柳川 善一

四月にノース・カロライナ洲ラレー市、六月にニュー・カレドニアの首都ヌメアの二つのクラブから初めて受入を敢行、そして秋はニュージーランドのカピティコーストへ渡航交換と、FF交換事業に忙しかった2005年に、佐原夫人の後任としてクラブ会長に就任してもう八年が経過しました。その後は年一回づつの渡航と受入を励行する一方、小じんまりした西東京クラブの会員全員が尽力して、2009年には第22回のFF日本大会を無事挙行することが出来ました。今年は広島での世界大会に会員13名が参加、閉会式で見事な挨拶を披露したミルン理事長とは八年ぶりの遭遇で、こちらが渡航した時彼はカピティコースト市長、豪快だったジープ9台でのピクニックの話題で盛り上がりました。



広島世界大会での記念植樹

日本での世界大会も成功裡に完了し Friendship Force も新しい時代に入ります。喜寿を超えて体力と知力の衰えを悟る昨今ですが、会員各位のご協力に心から感謝いたします。



【4】 広島 FFI 世界大会

4-1) 広島 FFI 世界大会報告

石井 健二

創立35年を迎えたFFIの世界大会が、平和宣言都市、広島市で“Hiroshima for Peace and Friendship”と題して、10/31～11/2 無事・盛会裡に開催された(主催FFI、地元FF広島クラブが全面協力)。20カ国から370名余り、西東京クラブから13名が参加した。S.Mueller氏(米国国際交流財団名誉会長、招待演者)は、国際理解を深める上で、民間外交を実践するFF活動の意義・重要性を指摘された。



鏡開き

ブラウン会長は、“FF, Today and Tomorrow”と題し、FF発展の歴史、世界各地の新クラブ誕生状況、会員高齢化等による活動弱体化の課題にふれた後、グローバル交換、テーマのある交換など補足的な新方式の導入、Website充実、Face Book導入などIT技術の積極的な活用により活発な交換を取り戻しつつある、と報告。“New Club Development”、“Strategies for Club Development”、“Getting Connected with Social Media”、など、初日、2日目合わせて17のワークショップが持たれ、事例紹介、質疑応答を通して、会員増の工夫、充実したクラブ内活動、交換などについて学んだ。

2日目は広島デーとして全体会で、森川高明広島クラブ会長が、“A Personal Perspective”と題し、原爆の被害・悲惨さを体験を交えて話され心に深く訴えるものがあった。広島平和文化センター理事長 S. Leeper 氏

は核兵器廃絶に向け、世界各国の市長を巻き込んでの活動を紹介。「原爆の被害」ビデオ、「被爆体験記」朗読、原爆死没者追悼記念館、平和公園見学などが持たれた。国内及び海外のクラブから届いた千羽鶴は13基もの束となり、平和記念公園内所定の建家に掲げられた。

3日目の全体会では、FF活動に特に貢献があつたクラブ(FF Taupo(NZ)、FF Louisville(US))、個人等の表彰に続き、次回世界大会の予告(11/22-25, 2013、米国 New Orleans)がなされ、愛知FFJ名誉顧問、A. Milne FFI理事会代表の挨拶をもつて閉会した。上記議題催しに加え、日本文化体験(着付け、茶道、折り紙、書道、折り紙、わらべ玩具)のワークショップ、カラオケ、宮島・錦帯橋等の観光、ガラパーティなどの企画が、広島クラブを中心とするボランティアの全面的な協力を得て楽しく実施され、友情を確認し育むのに役立った。

なお、東北大震災被災者の子弟(20名強)をFF Sunshine Coast (Aus)にホームステイいただく提案が同クラブからなされた。本プロジェクト実現のため、地元FF宮城、郡山ク支援のもと、大会で募金ラッフル(賞品付きの籠)も行って資金援助する方針がFFIとして決まり、協力要請が全体会初日になされた(担当、余村FFI理事)。大会中のチケット売上45万円プラス海外クラブ及び個人の寄付を加えて60万円強と目標を上廻り、渡航の実現に向けて大きく前進することになった。

4-2) 広島世界大会後のツアーエクスペリエンス

稻垣 明子

我々20数名(外国の方9~10名)は、第39代アメリカ大統領カーター氏ゆかりの“カーターシビックセンター”及び“宿命的な平和の鐘”見学コースに参加。

広島から車で2時間ほどの小さな町三次市甲奴町に近代的な建物の“ジミーカーターシビックセンター”があります。通りには“カーター通り”と名付けられ地域の方々の熱い思いが感じられます。

カーター氏の名前を冠したこの施設は甲奴町にある曹洞宗寺「正願寺」の梵鐘が縁で始まったそうです。第2次世界大戦中に砲弾の資材として梵鐘が供出されたが、兵器とはならず数奇な運命をたどり、英国から米国へ渡り、当時すでに世界平和の実現に精力的に活動されていたカーター氏に贈られ、現在は「平和の鐘」として米国のアトランタ市のカーターセンターに展示されています。

1990年カーター氏自身が梵鐘のふるさと甲奴町を訪問され、アトランタ市との交流が始まり、この小さな町にFFの精神が息付く大きな絆が生まれていることに感動です。



正願寺のご住職と

センターから車で10分ほどにある「正願寺」に向かい、ご住職直々のお出迎えを受け、ご本堂ではFFの今後の発展祈願の貴重なお経を拝聴し、我々日本人はもとより外国の方々は神妙な面持ちで異文化体験を楽しみました。

「正願寺」いわれの梵鐘(カーター氏ご夫妻も突かれた)を一人一人願いを込めて突きました。この鐘の響きが平和と友情の響きとして世界に広がってほしいと願います。

4-3) 広島世界大会後のホームステイ受入 Harrington 夫妻を受入れて

高垣 孝

西東京クラブは広島世界大会後にメキシコ・グアダルーペ、米国・デモイン、ロサンゼルス、ノーザン・イリノイの各クラブから合計4組のアンバサダーを、それぞれ虫明さん、村上さん、稻葉さん、高垣が受入れました。我家のアンバサダーはノーザン・イリノイクラブのBrian & Joan Harringtonご夫妻でした。



Brian & Joan Harrington夫妻と

奥さんのJoanは同クラブの会長、ご主人のBrianは同クラブが企画したGlobal Food ExchangeのEDをされるなど、とても熱心にFF活動をされているようでした。

日本は初めてとのことでしたので、明治神宮、都庁食堂・展望台、浅草仲見世を案内しましたが、特に明治神宮では七五三の可愛い衣装に目を細め、写真を何度も撮っていました。翌日はあいにく雨だったので、小田急ロマンスカー、登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、芦ノ湖遊覧船を乗り継いで箱根に行きました。いろいろな乗り物が楽しめたこと、大湧谷では雨も上がり、富士山も見えたこと、芦ノ湖湖畔の紅葉も見ごろで、とても喜ばれ、「この one day trip はすばらしい企画だ」と、ED目線でおほめいただきました。

11月7日の夜は東京クラブが、Global Food Exchange でお世話になった Harrington 夫妻達に答礼の意味で、パーティを開いて下さり、今回東京クラブにホームステイしたアンバサダー及びそのホストファミリーの方々と共に、私も参加させていただきました。パーティはオバマ大統領の再選が決まった直後で、オバマ大統領の地元のノーザン・イリノイクラブから参加された 6 名のアンバサダーは、大変ご機嫌でした。米国以外では、インドネシア、マレーシア、コスタリカ、トルコ、ドイツからのアンバサダーも集まり、国際色豊かな 50 名程の賑やかなパーティとなりました。

ご夫妻共、とても Food に関心があるようで、相模原にある農園レストランや、ナチュラルフーズのカフェエリアにも興味を持ち、スーパーの食品売り場やデパート下の各種惣菜売り場(米国デパートには無い)などでは、いくら時間があっても足りないほどでした。また我家では家内が作った料理を中心に各種料理談義に花が咲きました。

4泊5日の短期間のホームステイでしたが、米国に於ける FF 活動の実態も知り、大変参考になりました。また東京クラブの方々には、デイホスト、パーティでお世話になり、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

【5】関東ブロック会議

今村 佐知子

9月1日(土)東京駅近くの甲南大学ネットワークキャンパスにおいてブロック会議が開催された。東京クラブ14名、埼玉クラブ11名、西東京14名、又新しく誕生したMt.富士山梨クラブは所用の為懇親会のみ3名の出席となった。余村さんの FFI 理事会報告や石井(嗣)さんの世界大会準備状況報告の後は各クラブからの渡航、受け入れ情報に加え各クラブ共通の問題点などを話し合い活発な意見交換が交わされた。新しい渡航の形としてはテーマある交換、今回はアメリカでの(food exchange)に参加した渡航報告が新鮮であった。又問題点としては渡航希望者が多数の場合の選別方法やホストファミリーの不足、負担の多さなどであった。

会を重ねる毎にブロック会議は和やかに活発に樂しくなっていきます。山本さんのお陰で最高の立地条件で開催する事ができました。石井(健)議長お疲れ様でした。懇親会も楽しかったですね。来年は東京クラブ主催です。



会議の様子

【6】東京スカイバスツアーの思い出

山本 敏雄

9月1日(土) 前日までの猛暑はどこかに行ってしまい、爽やかな風の吹く中、関東地区ブロック会議の始まる前の時間を利用しての東京観光バスツアーに参加しました。10時に丸の内の三菱ビル前よりオリンピックのパレードで使われた赤色のスカイバスは出発しました。皇居、近代美術館、イギリス大使館、国立劇場、最高裁判所、国会議事堂、と普段テレビで見る風景を連続して確かめながら楽しみました。2階建てのバスのため街路樹に触れそうになるたび、あちこちから歓声が上がりました。乗る時から多少の不安はあったのですが、コースも終わりの霞が関の官庁街にさしかかったころからパラパラと降りだした雨は、銀座ではシャワーとなり、ガイドさんがあわてて準備したレインコートを着るのも間に合わないくらいの激しさで、銀座の風景は何も見ないままバスは豪雨の三菱ビルに到着しました。波乱に満ちた楽しい 50 分のバスツアーでした。



東京スカイバスの 2 階にて

参加された皆さま本当に疲れ様でした。思い出に残るツアードでした。



新入会員プロフィール

中神 純子

福岡県出身。東京都豊島区を経て 結婚後は 夫の転勤で 兵庫県明石市 加古川市 東京都目黒区 町田市 横浜市 茨城県ひたちなか市など引っ越し多数。現在は 青葉台在住。結婚 47 年目の専業主婦。夫と年金暮らし。

趣味は 以前は 昭和 48 年に 転勤先のアメリカで見つけた 2 本の練習用ストック付きで覚えた 一輪車乗り。当時は一輪車はサークスか中国雑技団の人しか乗っていなかったので 自慢げに乗っていたが 昨今小学生の乗り物になってからは 趣味を変更して専らメタボ対策のウォーキング。

この会へは 台湾からの方々との青葉台散策に参加の後 次の会(間違って役員会も)を見学させていただく。ガバナーまでいらっしゃる立派な会のようですが 果たして会員の資格があるのかとちょっと引いている仮入会員。



西東京クラブ・ニュースコーナー

1) 2013 年の活動予定

- 1月 26 日 17 時半～
西東京クラブ総会
場所: つくし野センター第二会議室
連絡先) 事務局 虫明 陽子 Tel: 042-795-5466
- 5月 25 日もしくは 26 日から 1 週間
ロシア・サラトフクラブ受入
連絡先) ED 山本 文 Tel: 042-725-6617
- 6月～7月予定
関東ブロック会議 東京クラブ主催
- 6月末日
第 17 号ニュースレター発行
- 10月 19、20 日
鳥取クラブ主催日本大会
場所: 米子コンベンションホール
連絡先) フィールドレップ・コーディネータ
石井嗣代 Tel: 044-852-5231

■ 11月 1 日から 1 週間
ニュージーランド・ネルソンクラブ渡航
連絡先) ED 山崎恵美子 Tel: 044-953-4121

■ 11月 22 日～25 日
米国ニューオーリンズ世界大会
連絡先) フィールドレップ・コーディネータ
石井嗣代 Tel: 044-852-5231

■ 12月末日
第 18 号ニュースレター発行

■ その他
毎月 1 回役員会、クラブミーティング、他

【編集後記】

今年は受入、渡航以外に多くのイベントがあり、参加された方はかなり忙しくもあり、充実した 1 年だったのではないかと、会報を編集してみて感じたところです。

昨年ハンブルグの世界大会前にタリンに寄り、タリンクラブのレア会長とリターン渡航の話をつけて、7 月のエストニア渡航実現にこぎつけました。

渡航参加者も 19 名と最多記録を更新し、投稿者の記載にもあるように、各自ホームステイを楽しんでもらったばかりでなく、エストニアの歴史、文化に直接触れた意義は大きかったかと思います。

一方今年の秋の最大イベント、広島の世界大会は 370 名を超える参加者と聞いて、まさに平和の大祭典だったようで、FFI の歴史に 1 ページを開いたものと思われます。広島大会ツアーを西東京クラブからの参加者のために企画・準備された、山崎恵美子さんのご尽力にも感謝したいと思います。

年末には総選挙もあり、世間は先行き不透明感がありますが、来年も FFI 及び西東京クラブの活動が順調に遂行されることを祈念したいと思います。

広報担当: 高垣 孝

編集発行: ザ・フレンドシップフォース・西東京
事務局: 東京都世田谷区上馬 2-37-12-701
櫛川 善一
Tel & Fax: 03-3419-3018
E-mail: nagikawa@n01.itscom.net